

2020年3月期決算の発表について

昭和産業株式会社(社長:新妻一彦)の2020年3月期連結決算は、売上高 254,017 百万円、経常利益 10,160 百万円となりました。2021年3月期連結業績予想については、売上高 2,560 億円、経常利益 92 億円を見込んでおります。

【2020年3月期連結決算】

当連結会計年度の我が国経済は、個人消費の持ち直しや設備投資が増加基調を示すなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。その一方で、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題などの影響、また相次ぐ自然災害の発生や人手不足を背景とした人件費、物流費の上昇などが景気回復の足かせとなっていた中、年度末の新型コロナウイルス感染症の拡大が追い打ちをかけ、先行きの不透明感は一層高まっております。

このような状況の中、当社 90 周年を迎える 2025 年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた 1st Stage「中期経営計画 17-19」も最終年度を迎え、5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各種施策を着実に推進してまいりました。

当連結会計年度では、「①基盤事業の強化」の施策については、今後顕在化してくる労働力不足への対応や価格競争力の確保のために、船橋工場内にプレミックス工場を新設することを決定いたしました。最新の自動化設備や、IoTによる高い生産性と、生産リードタイムの短縮、多品種小ロット生産を実現するとともに、食品安全についてもより一層追求してまいります。

さらに、「②事業領域の拡大」の施策については、台湾大成集団のグループ会社である「國成麵粉股份有限公司」および「中一食品股份有限公司」が実施する第三者割当増資に際して株式を引き受け、台湾において新たに「製粉事業」「飼料事業(鶏卵)」に参入することを決定いたしました。増資後の当社の出資比率は、「國成麵粉股份有限公司」に 40%、「中一食品股份有限公司」に 35%となり、持分法適用会社とする予定です。

当連結会計年度の経営成績は、連結売上高が 254,017 百万円と前年同期に比べ 1,887 百万円(0.7%)の減収となりました。営業利益は 8,808 百万円と前年同期に比べ 364 百万円(4.3%)の増益、経常利益は 10,160 百万円と前年同期に比べ 374 百万円(3.8%)の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は 6,764 百万円と前年同期に比べ 489 百万円(6.8%)の減益となりました。

【2021年3月期連結業績予想】

国内経済情勢につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれております。

当社グループは、穀物の一次加工を主な事業としており、小麦、大豆、菜種、とうもろこしなどの穀物原料相場や為替相場の影響を受けます。今後も穀物原料相場や為替相場は不安定な状態が続くとみられ、当社グループを取り巻く経済環境は引き続き厳しい状況が予想されます。

このような状況において、当社グループは、当社 90 周年を迎える 2025 年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向け、「確立」のステージと位置付ける2nd Stage「中期経営計画 20-22」を 2020 年4月よりスタートさせております。更なる企業価値の向上に努めることで厳しい経済環境に対処してまいります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大による個人消費や企業活動への影響が、当社グループの事業にも影響を及ぼすものと考えられます。第2四半期までこの状況が続くと想定しており、売上高で 46 億円、営業利益で8億円、経常利益で8億円、親会社株主に帰属する当期純利益で6億円程度の下振れ影響を織り込んで 2021 年3月期の業績予想を作成しております。

2021 年3月期の業績は、連結売上高 2,560 億円、連結営業利益 84 億円、連結経常利益 92 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 65 億円を見込んでおります。

以 上

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当:赤松
TEL:03-3257-2042